

敬 愛

甲斐市立敷島中学校
学校だより 第 7号
平成29年 9月25日(月)
発行 長田 靖

1人1役全員主役

敷中の、敷中生の力を示した第55回年輪祭

9月13日(水)・14日(木)、第55回年輪祭が開催されました。2日間とも天候に恵まれ、多くの参観者の暖かな眼差しと声援に包まれて、生徒たちは日ごろの取組の成果を存分に発揮することができました。本当にすばらしい学園祭でした。

テーマ「**輪～55回目の年輪を刻もう**」は、学校創立70年を祝う年、また年輪祭もきりの良い55回目という巡り合わせに相応しいものでした。そのテーマの具現化に向けて、生徒は授業をはじめとする日常生活を大切にしながら、懸命に準備しました。生徒のがんばりを支えるべく、職員も力を尽くしました(オーバーワーク気味かも…)。

とりわけ、最後の年輪祭にかける3年生の思いは非常に強いものでありました。その3年生が、力強く全校をリードしてくれたと思います。がんばる3年生の姿に、1・2年生が安心してついて行くことができました。



年輪祭の2日間を通して、生徒の真剣な眼差しや素直に発される声、豊かな表情、自分や仲間のために走る姿…に、若者が持つ真っ直ぐなエネルギーを感じました。一人一人が自分の責任を果たし、そして全員が主役になった2日間でした。全員の手で、55回目の年輪をくっきりと刻むことができたと思います。

ご参観、ありがとうございました!

平日の実施にもかかわらず、今回の年輪祭にお出でくださった方は延べ687名です。これは名簿に印をいただいた数の合計ですから、実際にはもっと多いと思われます。多くの皆様に参観していただけたことは、生徒・職員共に大きな励みになりました。ありがとうございました。

これからも保護者や地域に開かれ、信頼される学校づくりに努めて参ります。どうか敷島中への暖かなご支援とご協力をお願い申し上げます。

中学生弁論大会で堂々と訴えました

夏休み明け、2学期が始まって間もない8月31日（木）、敷島総合文化会館で「第37回少年を非行から守る中学生弁論大会」、「第59回 中学生交通弁論大会」が行われました。

この大会は、葦崎警察署管内の2つの市（葦崎市、甲斐市）、7つの中学校から弁士が集い、非行防止や交通安全について、日ごろ感じていることや体験をもとに意見を述べる場です。



本校からは佐野明日美さん（3-1）、関宗幸くん（2-3）が出場し、堂々と意見を発表して大きな拍手を受けました。また、本校の1年生が聴衆として参加させてもらいました。弁論を聴く態度もとても良いと、お褒めの言葉を頂戴しました。

審査の結果、関くんが交通安全弁論の部で最優秀となり、葦崎署管内の代表として10月23日（月）に行われる県大会に出場する

↑表彰式＜前列右から3人目が関くん、後列左端が佐野さん。中央は初原葦崎署長さん＞こととなりました。

なお、佐野さんと関くんの弁論は、年輪祭文化の部でも発表されました。

コミュニケーションで心を育てる …ある教育雑誌の記事より

さて、世界的な調査であるPISA（OECD生徒の学習到達度調査）で、常に上位にランクインするフィンランドの家庭では、どこの家に行っても実に多くの本があるそうです。また日本では、テレビを視ながら食卓を囲むという家庭の姿が多く見られますが、ロンドンやパリの家庭のリビングにはテレビがないことが多く、テレビより家族の会話や読書に時間を費やすことを重視していると言われます。

ご家庭で、お子様のより良い成長のために、「家族との豊かなコミュニケーションをどうつくれるか」にご留意いただくと共に、次の点が重要であると思います。

- ① できないことを叱るより、できることを見つけて褒める。
- ② 結果だけでなく、行いの過程を励ます。
- ③ つきっきりでなく、ある程度本人にまかせる。
手を離して、目は離さない。
- ④ 家族みんなでやる。不公平感をつくらない。
- ⑤ 継続する。その場その時の気分に流されない。
- ⑥ 子どもの心に寄り添う。

毎年、青少年をめぐる痛ましい事件が続きます。あらためて、心を育てることの大切さを痛感します。「互いを思いやる心」、「感謝する心」、「挑戦する心」、「努力する心」、「あきらめない心」…。心を育てることについて、話し合ったり心がけたり、ご家庭でも、ぜひ…。



